

安全な国産グリーン社会

コラム Safety Domestic Green Society

第25回

グリーン社会の倫理学③
—技術連関&エコエティカ

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

はじめに
—技術と社会

「機械技術史・工学史」「エネルギー教育・環境教育」「技術教育・工学教育」「技術教育・工学教育」

画したのが、哲学者・美紀の四半期に生きている学者の今道友信氏による「技術連関の意味と今日」の背景であった。同氏については、次のように紹介されている。

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。

いまだ18年も前になるが千葉大学で日本機械学会の技術と社会部門の講演会を開催した。筆者の勤務先であり幹事として講演会を企画した。この部門は、機械学会にある牛山泉氏は「機械技術史・工学史の分野で、技術や要素技術についてではなく、技術と社会との連関と歴史、そして教育などをテーマとしている。技術と社会の部門の看板コピーには、「技術と社会の連関を巡って：過去から未来を訪ねる」を掲げている。

だがその一方で科学技術は、恐ろしい破壊力の軍事兵器の発明を通して、戦闘行為やテロリズムなどの形で、信じられないほど多くの人々を殺害した。その失われた生命こそが人権の基礎であり我々が最も尊重しなければならないものではないか。もちろん人類の福祉にとつて科学技術が有益な働きをし、我々もその恩恵に与っているが、それにもかかわらず科学技術が文明の様々な領域において、悲惨な死の原因となつているという事実を看過してはならない。

一般に人間の活動の次元とあり、つまり時間は意識のトボス(場)であり、従つて時間の無化は意識の無化を意味するからである。

その講演会は、日本設計工学会の共催としても行なわれ、次の七分野で39の講演があった。

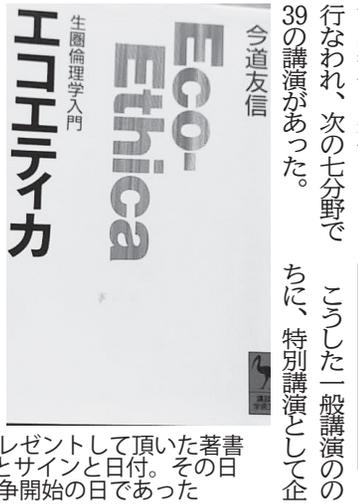
科学技術を用いて新たな発明を試みるというその可能性の模索自体は悪いことではないが、その場合に問題となるのは精神的態度である。好奇心が大切で、これが科学の進歩、技術的創造の原動力だといふ人々が多い。が、好奇心が科学技術的創作の理念、あるいは學問的理論の科学技術への応用の理

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。

「大型風力発電機の技術史的考察—大型化の推移と次世代風車の課題—」という題目で講演された。ちなみに筆者は「環境・エネルギー教育における明示知と暗黙知」のほか2件の講演をした。

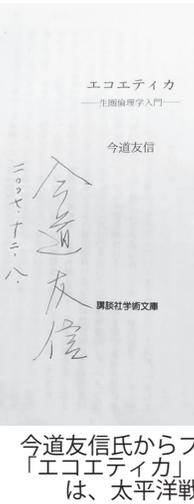
科学技術を用いて新たな発明を試みるというその可能性の模索自体は悪いことではないが、その場合に問題となるのは精神的態度である。好奇心が大切で、これが科学の進歩、技術的創造の原動力だといふ人々が多い。が、好奇心が科学技術的創作の理念、あるいは學問的理論の科学技術への応用の理

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。



「エコエティカ」は、いままでいうSDGsは未だ掲げられてはいなかったが、このコラムの主題である「SDGs/安全な国産グリーン社会」には合致しており、とりわけ、今道友信氏の提案の「技術連関」は、「エコエティカ」(Eco-Ethica)の根本理念であり、以下に紹介したい。

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。



「エコエティカ」は、いままでいうSDGsは未だ掲げられてはいなかったが、このコラムの主題である「SDGs/安全な国産グリーン社会」には合致しており、とりわけ、今道友信氏の提案の「技術連関」は、「エコエティカ」(Eco-Ethica)の根本理念であり、以下に紹介したい。

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。

連載

今道友信氏から「エコエティカ」として頂戴した。その日付は、太平洋戦争開始の日であった。

念となつてはならない。好奇心は人間性のためには不完全で、時には人間の生命を脅かすことにもなり、許しがたいものである。この好奇心は、殺人光線を発射したり、自己の身代わりとして行動するクローン人間を製造したりするところでもなかなかない。それゆえ科学技術を用いる人間の活動について、冷静な反省を持つことが21世紀の課題なのである。それと同時に、科学技術に囲まれた人間が安全に、より善く生きるために、新しい時代に即した道徳について考えるということは、我々にとつての差し迫った課題の一つである。